

Topic 72

シカゴ：変わりゆくブラウンフィールド再開発の 視点(その1)

お疲れ様です。環境メルマの坂野です。

この環境メルマの新年度号（2007年4月13日配信）で、「都市」をテーマとしてとりあげようと思いましたが、手始めは、ニューヨーク市でいま始まろうとしている取り組み（PlaNYC）を簡単にみてみましたが、今回からしばらくのあいだ、新年度号で列記した16の都市のうちのいくつかについて、「Brownfield Blueprint」という本に書かれた内容をもとに、おはなしを進めていこうと思います。

「ブラウンフィールドの青写真」と題されたこの本は、2001年にICMA (www.icma.org) から発行されています。アメリカのブラウンフィールド法ができたのは2002年ですから、それよりも前の話を中心になっています。昨年度のメルマでまとめた、州のそれぞれがもっているVCP（Voluntary Cleanup Program：自主浄化プログラム）は、1990年代に、都市（あるいは地域）のレベルで取り組んできたプロジェクトのベストプラクティスや教訓が詰まったものですから、この本を勉強することで、現在のアメリカのブラウンフィールド発展の背景をすこしよく理解できるのではないかと、という期待もっています。

■ シカゴ・ブラウンフィールド・イニシアティブ

1993年、シカゴ市は、不動産を取得して、まとめて、修復して、それらを有効的に再利用するために“Chicago Brownfields Initiative（以下CBI）”を立ち上げました。市の戦略は、ブラウンフィールドを浄化し再開発すること、およびブラウンフィールドの民間再開発を推進するための政策を改善することによって、環境修復と経済発展を結びつけること、にありました。工業地の再開発をすすめることによって、税収を上げ、雇用を生みだし、そして、市の環境・経済両面での健康状態を改善させようというわけです。

このCBIは、まず5箇所の工場跡地を対象にしてパイロットプログラムを開始します。このプログラムは、市の環境局が主導で、シカゴ市長オフィス、市計画開発局、建築局、法務局の協力を得てすすめられ、そのために市は2百万ドル（～2億円）を起債してこのプログラムの予算を手当てしました。このおかげは、5箇所の調査と2箇所の対策のための費用につかわれ、結果として、5箇所のすべてが生産的活動を行なう場に生まれ変わりました。修復後の跡地は、85万ドル（～8500万円）で譲渡され、新しい建設活動と100人以上の雇用を生み出しました。このパイロットプログラムによって、シカゴ市はさらにアグレッシブで大規模な事業に対して、創意工夫をしながら取り組んでいく足がかりを作ったといえます。

■ ブラウンフィールド・フォーラム

1994年12月、シカゴ市はブラウンフィールドに関連する問題を議論するフォーラムをたちあげます。「Blueprint」から、その部分を抜き出してみましょう。

「参加者は 100 人以上で、その内訳は、商業投資家、製造業者、環境専門家、銀行家、規制当局者、市の組織の投資家及び市の職員など。Community Recovery, the Chicago Legal Clinic, the Center for Neighborhood Technology などの地域のグループも参加した。市長の Richard M. Daley は参加者に、ブラウンフィールド再利用の障壁を分析することだけでなく、市内のブラウンフィールドサイトにおける経済振興の手法を変えることも要請した。

二日間の会議によって、ブラウンフィールド再開発の複雑さが浮き彫りになり、これらの状況に取り組むための共通の基盤をつくることができた。この会議は、法律上の障壁、再開発基金、そしてブラウンフィールド予防などの問題に取り組むための 6 つのワーキンググループを立ちあげて、閉幕した。各ワーキンググループは、1995 年初めまでに約 6 回集まり、提案書の草案を作成した。1995 年 5 月には、これらの報告書を共有するために、全体フォーラムが再度開催された。

1995 年のアクションプラン報告書は（その手の計画書としては全米でも初期のもの）は、サイトの再利用に関わる 60 以上の障壁を特定した。ブラウンフィールド・フォーラムが閉幕した 6 月終わりまでに、グループはこれらの障壁を打開するための 63 の提案に同意した。参加者は、この提案を実行するために 9 つのプロジェクトチームを編成し、最終的に提案の 3/4 以上が取り組まれることになった。」（村上さん、日本語訳ありがとう）

続きは Topic 73 で。

(banno@ers-co.jp)